郊外住宅地とコミュニティを魅力的にデザインする雑誌

ARIKEN 創刊号

アリケン

次世代郊外まちづくり

郊外住宅地とコミュニティのあり方 フューチャーセンターセッション

Day1 Dialogue Session

次世代郊外の課題を広く理解して、分野横断のブレークスルーアイデアを創造する

Day2 Design Session

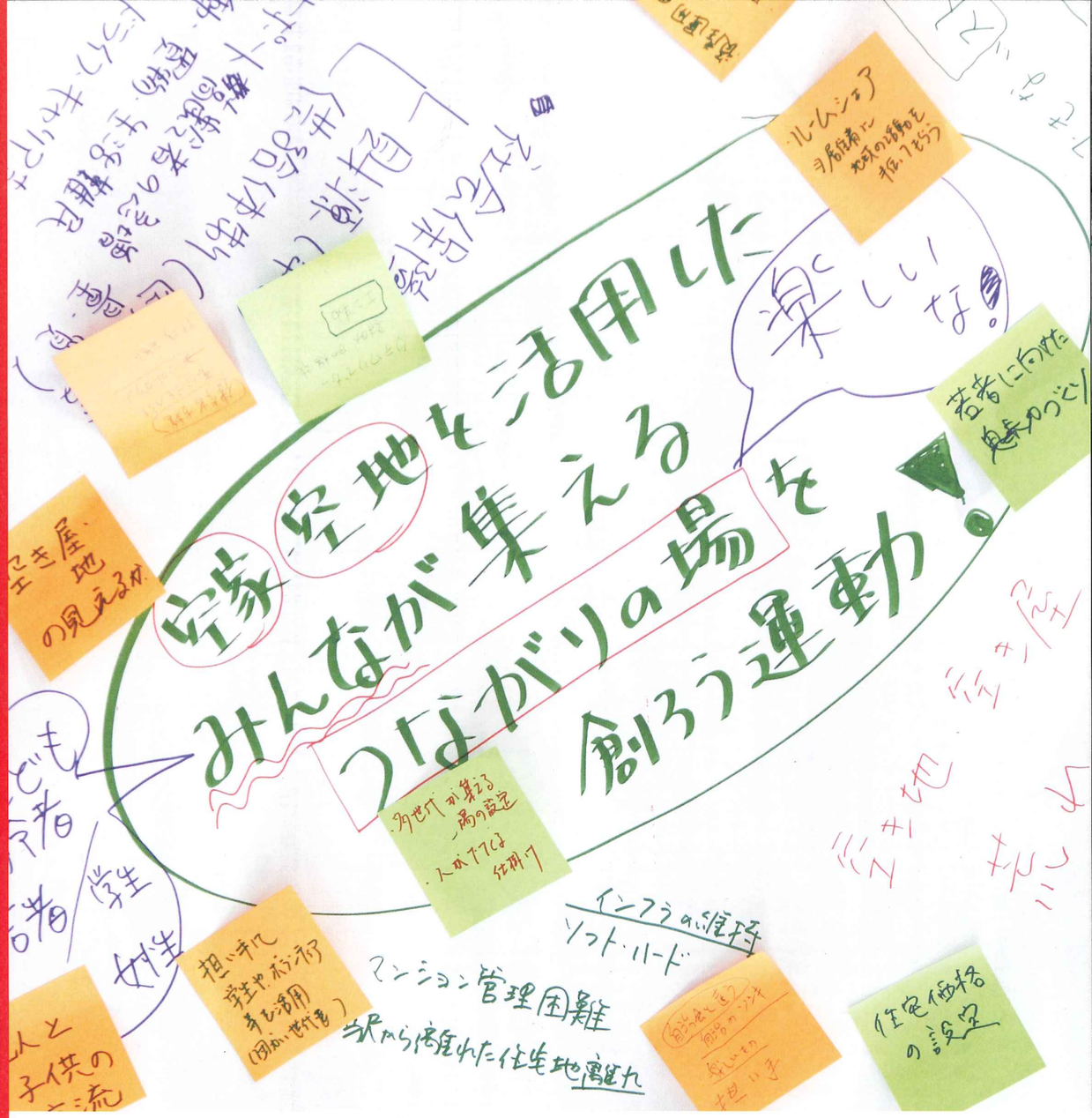
「次世代郊外まちづくり」シナリオをイメージし、アクションアイデアを作成する

2012 1

フォトグラファー:三輪晃士

ARIKEN January 2012 No.1 アリケン創刊号 2012年1月発行

発行=「郊外住宅地とコミュニティのあり方」研究会(横浜市・東急電鉄㈱)



セッションに参加して

特定の地域で個別具体的に考えることができるチャンスを

日ごろ企画の仕事をしていますが、郊外は何もしないところだと思っていました。今回は郊外について考えてみれたこと自体がとても新鮮で、面白く感じることができました。

個人的には、郊外住宅地でやりすぎと言われているクリスマスイルミネーションが面白いと感じているので、それを郊外活性化にうまく利用していきたいなと考えています。

ただ、抽象的になるのは良くないので、特定の地域で個別具体的に考えることができるチャンスを待ちたいと思います。

(グッドアイデア　松田 朋春さん)

「郊外住宅地とコミュニティのあり方」研究会とは・・・

これからの「人口減少」、「少子化」、「高齢化」、「都市の老朽化」といった社会課題に対応した、まちのあり方を考える、横浜市と東急電鉄の共同研究会。(略称:あり研【ariken】)

典型的な都市郊外部をモデルとして検討し、既成市街地における次世代郊外まちづくりの「横浜モデル」構築を目指す。

郊外住宅地とコミュニティのあり方 フューチャーセンターセッション

「次世代郊外まちづくり」に向けて

二子玉川ライズオフィス8階の『カタリストBA』には、つねに様々な企業の変革リーダー、社会起業家、デザイナーが集い、社会的課題に挑んでいます。そのテーマは、まちづくり、高齢社会のサービスモデル、福祉のデザイン、働き方の未来、震災復興、子供の創造性など多岐にわたります。

ここから社会イノベーションが起きる、そんな予感のあふれる『カタリストBA』ですが、この日はいつも以上に、多くの素晴らしいメンバーが集結しました。郊外住宅地とコミュニティをイノベートしようという横浜市と東急電鉄の呼びかけで、具体のフィールドを持ち、実践的に取り組んでいる、まちづくり、建築、アート、子育て、高齢者コミュニティ、医療、福祉、食育、環境、エネルギー、モビリティ、ICT…といった多岐にわたる分野の創造的人材が、二日にわたって、フューチャーセンターならではのダイアローグで「次世代郊外まちづくり」の核心に迫っていきました。

フューチャーセンターセッションは、未来で起こりうる可能性をみんなで見出していくオープンなプロセスです。
楽しくワクワクするような場の演出の中で、多くの参加者と普段語り合えない本音の意見や深い想いを語り合います。
とても楽しく、新鮮な気づき、実践的な学び、創造的なアイデアにあふれた場です。

□参加者（あいうえお順、敬称略）　■まちづくり専門家など（23名）　■横浜市役所（16名）　■東急電鉄（8名）　■ファシリテーター（6名）

■青木玲香（東京都市大学環境情報学部）
■安達友彦（横浜市健康福祉局企画課）
■磯村歩（㈱グラディ代表取締役）
■犬塚泰男（東急電鉄㈱マンション事業推進部）
■上田晶子（パナソニック㈱）
■鵜澤聡明（横浜市政策局政策課）
■江田隆三（株式会社地域計画連合）
■大友直樹（横浜市建築局企画課）
■大野武志（東急電鉄㈱企画開発部）
■岡崎エミ（studio−L）
■沖浦公隆（横浜未来まちづくり㈱）
■小倉哲人（横浜市都市整備局企画課）
■葛西晴喜（横浜市建築局企画課）
■片岡千香子（東急電鉄㈱建築技術部）
■川手光太（横浜市建築局都市計画課）
■椚座有咲（横浜市建築局都市計画課）
■黒田浩（横浜市建築局企画課）
■後藤幹雄（東京ガス㈱）
■小西甫正（オーイーエヌパトナーズ）
■齋藤稔（㈱ベストライフプロモーション）
■指出一正（㈱トド・プレス、月刊ソトコト）
■吹田良平（㈱アーキネティクス）
■鈴木健一（横浜市都市整備局企画課）
■鈴木義樹（東急電鉄㈱コンサルティング部）
■高井雄也（横浜市建築局住宅計画課）
■竹中智広（中央大学総合政策学部）
■田島邦晃（東急電鉄㈱事業推進部）
■田島剛（横浜市建築局企画課）
■巽慶太（横浜市政策局政策課）
■田村大（東京大学i.school）
■田村了一（横浜市戸塚区民生委員）
■照沼博志（株式会社山設計工房）
■東浦亮典（東急電鉄㈱企画開発部）
■徳田雄人（地域認知症サポートブリッジ／認知症フレンドシップクラブ）
■中澤正紀（横浜市政策局政策課）
■林厚見（株式会社スピーク）
■林千賀（横浜市建築局企画課）
■藤縄潤（東急電鉄㈱事業推進部）
■藤原恵美子（野菜と藤原）
■前田展弘（東京大学高齢社会総合研究機構）
■牧野浩志（東京大学生産技術研究所）
■松田朋春（グッドアイデア㈱）
■宮内美樹（㈱横浜都市みらい）
■森田由紀（代官山ひまわり）
■山本憲彦（東急電鉄㈱住宅計画部）
■横山彰（横浜市建築局都市計画課）
■吉田和重（横浜市都市整備局企画課）
■野村恭彦（富士ゼロックス㈱ KDI）
■荒井恭一（富士ゼロックス㈱ KDI）
■堀内一永（富士ゼロックス㈱ KDI）
■金子篤（富士ゼロックス㈱ KDI）
■筧大日朗（富士ゼロックス㈱ KDI）
■青木真優（立教大学）

横浜市は、これからの10年で初めて人口減少を迎えます。2020年には、65歳以上の人口は96万人を超えて、4人に1人は高齢者となり、生涯未婚率の上昇などから、幅広い年齢層で一人暮らし世帯が増えると想定されます。

これら社会的課題をいかに克服していくのか、横浜市には多くの市民活動があり、その市民力で克服していくことが良いと考えます。それらを有機的につなげて、相乗効果を生み出すことが大切です。

行政として、市民の皆さんに安心して身近な地域に住み続けられる将来にしていかなければなりません。今後、駅周辺への都市機能の集積や、既存の大規模団地や戸建住宅地での生活支援機能の充実、更には駅前や福祉・医療拠点と郊外住宅地を地域交通でつなぎ、快適で利便性の高いまちづくりを進めていきます。

（横浜市政策局　鵜澤聡明）

東急電鉄は、田園都市線郊外部を長く開発してきたデベロッパーの立場で、郊外部の老朽化、高齢化、少子化などの課題に真剣に取り組んでいきます。

これからの人口減少時代にあった郊外住宅地とコミュニティづくりを目指して、適度な規模で機能集積されたコンパクトなまちづくり、それぞれの郊外部にあったエリアマネジメント、就業機会を確保できる都市部との補完関係づくり、エコやエネルギーを意識した美しい環境づくりを行っていきたいと思います。

これからの時代、まちづくりは地域住民が主役であり、まちに関わる横浜市と東急電鉄は官民の役割は違いますが、それぞれが〝やぶにらみ〟の状態で問題を放置することなく、今回のような場を継続的につくり、できる限り第三者を入れて意見を反映させることで、郊外部の問題解決をはかっていきたいと考えています。

（東急電鉄㈱　都市生活創造本部　企画開発部　東浦亮典）

DAY1 アジェンダ

1. アイスブレイク「自分の住んでいる地域を紹介しあう」
2. ワールドカフェ「郊外住宅地が抱える多様な課題を語りあう」
3. ゲストプレゼン「先進的な郊外まちづくり事例を紹介する」
4. アイデアブレスト「郊外住宅地の課題解決アイデアを出しあう」
5. グループプレゼン「郊外まちづくりで大切すべきポイントを発表する」

Day1
Dialogue Session
対話セッション

一日目から、いきなり議論沸騰

次世代郊外の課題を広く理解して、分野横断のブレークスルーアイデアを創造する

2011年 11月30日（水） 9:00-13:00

郊外部のイメージ、課題や問題点を語り合いました

郊外では、空き地や空き家が増えている。それらは利用可能な状態だが、活用されないまま放置されているので地域資産としての魅力がまったくない。この空（カラ）の資産をどう流動化させて郊外に活気を取り戻していくのかが大きな課題である。そのマッチングやコーディネーションについて真剣に考えていかなければならない。

空き家をみんなが集まる場にしている地域がある。子供や学生、高齢者など世代を超えて集える場にするためには、楽しんでもらえる場づくり、感動を与える演出が必要である。シェアハウスやアートビレッジ、研究センターとしてリノベーションするのもよい。それが可能になれば、外からの来訪者が増加し、地域内での人の動きも促される。

別の視点だが、郊外は多様性を見直し、魅力ある個性的な郊外ブランドを目指すべきである。シビックプライドの獲得である。そのシビックプライドがあれば、地域住民が主体となったまちづくりが実現できる。「与えすぎず、求めすぎず」というバランスもうまく機能するようになる。

郊外生活者には、生活のための稼ぎと地域貢献のつとめ（ミッション）の両方が必要である。高齢者であっても同じで、ひとくくりに高齢者にしてはいけない。高齢者の活動力に合わせて、地域の働き手になってもらうべきである。定年後のセカンドキャリアを活かした認定マイスター制度を導入するなど、地域活動の主軸になってもらうのが良い。

気仙沼3・11からの発信力
田村大さん
（東京大学i-Schoolディレクター）

空き家増加と高齢者対策
田村了一さん
（横浜市戸塚区民生委員）

集落診断、離島コミュニティデザイン
岡崎エミさん
（Studio-L）

まちとアート／五感の学校
松田朋春さん
（グッドアイデア）

ポートランド／グリーンネイバーフッド
吹田良平さん
（アーキネティクス）

ゲストの刺激的な活動紹介をふまえ、郊外を活性化させるテーマについて、みんなのアイデアを寄せてみました

郊外をザワつかせる異物混入できる場とは？

日本に来たがっている海外アーティストはたくさんいる。彼らに空き家を提供するのはどうだろうか。彼ら才能はすごいけど、日常生活は普通だし、どんどん受け入れるということも考えられるのでは。スタバみたいなチェーン店であれば、ラボを併設すると面白いかもしれない。地域の人のスキルを活かせる場にできれば、毎日コーヒーを飲みに通うのが楽しくなる。あと、まち単位の給食室やサラっと飲める酒場もいいね。土日のマックが定番化しているけど、地元の人が作ったものを地元の人が食べる、そうなれば多くの人が集まると思う。

市民が主役となって「まちを使いこなす」には？

やっぱり「食」が一番。人は食べることで命をつなぐことができる。おいしいところには、自然と人が集まる。本当においしければ、宣伝費をかけなくても口コミで、集客はどんどん拡大していく。野菜づくりから販売、食堂までを連鎖的につなげることで、地域の産業へ成長させることもできる。ヨコハマ市民まち普請事業コンテストで500万円の助成金をもらって頑張ろうかな。

まちづくりの担い手となるコミュニティを育てるには？

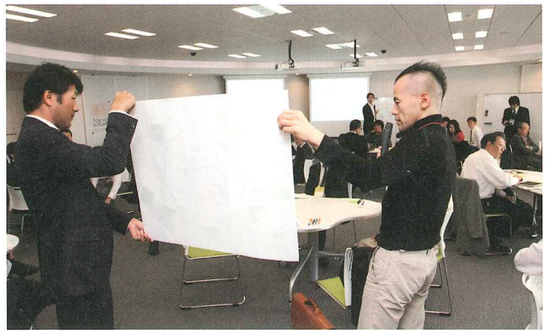
行政がお膳立てしすぎると、住民は誰も振り返らない。上から目線で「さあどうだ、できるだろう、やってみろ」では動かない。横浜市が「これ以上何もできない」と言って、地域ごとの主体性を引き出してみてはどうだろうか。お金の使い道を自分たちで決める郊外部になれば、担い手となるコミュニティが自然に生まれてくるかもしれない。欲を言えば、行政がヤマ場を演出してあげて、コミュニティ側の結束力を高めてあげられると理想的だろう。

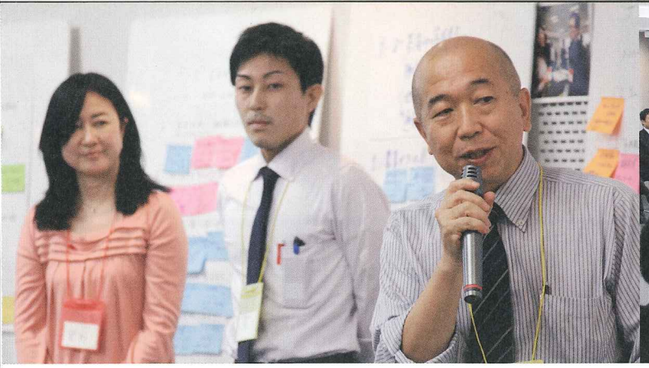
ローカルな取り組みを、外に伝え広げるには？

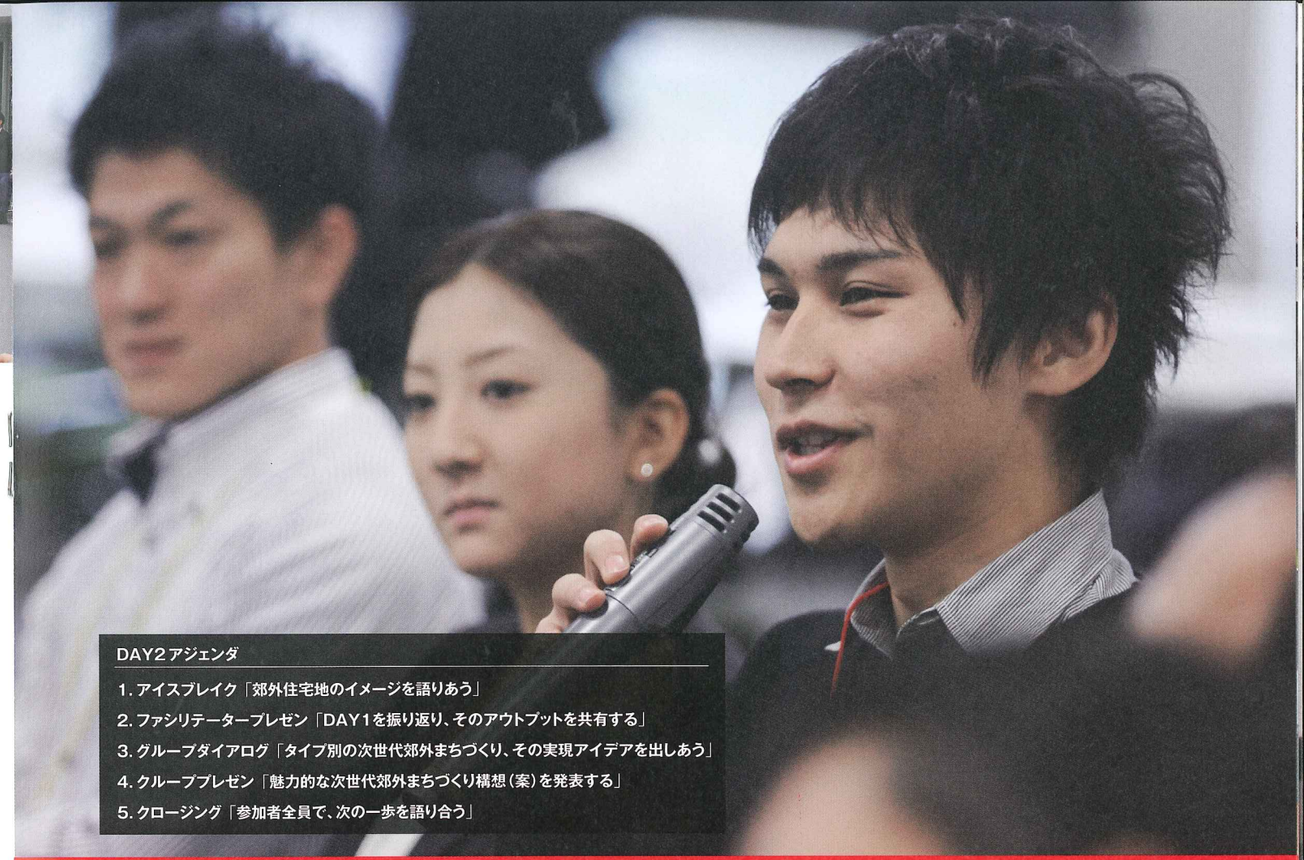
Facebookの〝いいね！〟ボタンのように、誰もが共感するような魅力が必要なんだ。例えば、「0円旅行」はどうかな。いろいろな郊外コミュニティをめぐるツアーで、お手伝いをする代わりに宿泊代と食事代をタダにしてもらう。全国でプラットフォーム化すれば、いろいろな郊外を順番に巡ることができる。学校と連携すれば、学生が授業の中で郊外地域を楽しく学ぶことができる。郊外をネタに事業を考える「ネタだしカンパニー」と連携すれば、郊外らしい笑いネタをTV番組化できるかも？

コミュニティリーダーになりたくなる仕掛けとは？

地域のために動こうとする人が少なすぎる。特に、リーダーは〝やり損〟とか〝責任〟とかのネガティブイメージばかりで、誰もやりたがらない。誰もが参加したくなる楽しいイベントを増やすべきだろう。実行する人が増えれば、責任役、企画役、実行役、ファシリテータ役など、チームとして責任や負担を分け合うことができるようになる。







DAY2アジェンダ

1. アイスブレイク「郊外住宅地のイメージを語りあう」
2. ファシリテータープレゼン「DAY1を振り返り、そのアウトプットを共有する」
3. グループダイアログ「タイプ別の次世代郊外まちづくり、その実現アイデアを出しあう」
4. クループプレゼン「魅力的な次世代郊外まちづくり構想（案）を発表する」
5. クロージング「参加者全員で、次の一歩を語り合う」

Day2
Design Session
デザインセッション

二日目はややリラックス、しかし議論は白熱化

「次世代郊外まちづくり」シナリオをイメージし、アクションアイデアを作成する

2011年12月08日（木）13:00-17:00

見えてきた次世代郊外への4つの革新的アプローチ

一日目を振り返ると、次世代郊外づくりのための4つの革新的なアプローチが見えてきました。その4つとは、主役交代、異物混入、多世代協力、地域間連携です。

主 役交代とは、まちづくりの主役が行政やデベロッパーではなく、地域住民が主役になっていくこと。行政やデベロッパーは住民と連携し支援していく。課題は、リーダとなる人材の育成とその支援策である。行政やデベロッパーに頼りっぱなしでなく、住民が主役になっていかなければならない。

異 物混入とは、郊外に多様性を持ち込むこと。楽しさやザワザワ感、ワクワク感を感じさせる存在によって生じる変化である。「変われるかもしれない」という気づきを与えるには、外の風を入れるのが一番である。外に触発されて、次は住民自ら行動を起こせるようになるかもしれない。

多 世代協力とは、コミュニティによる支えあいのことである。高齢者であれば、知識や経験が豊富にある。子供には愛嬌があり、その行動は誰もが快く受け入れてくれる。学生であれば、学びと融合することで活力ある労働力に変えられる。それぞれが補い合うことで、効果的に地域活動がリデザインされていく。住民が世代を横断してまちを使いこなすことでもある。

地 域間連携とは、地域内の取組みを地域外に発信し、地域の内と外をうまく橋渡しすることである。内に良い活動があれば外に広め、外の良い活動があれば内に吸収する。それがプラットフォームになれば、異なる地域同士が同じ目的で協業できるようになる。

次世代郊外の実現イメージを皆でデザインしてみました

□若者や高齢者が働ける

「農業がクール！」 地元野菜のオーガニックレストランが人気になり、多くの大学生が農業体験をするようになる

「駅前がホット！」 駅前サークルや駅前大学があり、地域の文化づくりや高齢者の人材活用が行われる

「空き家ビジネス」 郊外活性化の空き家運営ビジネスが立ち上がり、そこで雇用が生まれる

「地域通貨の銀行」 地産地消など、地域のため、地域住人のためのソーシャルビジネスが始まる

□変化が生み出される

「みんなが集う場所」 会社が終わると、廃校をリノベーションした食堂や飲み屋に集まる。仲間と夕飯を食べて一杯飲んで帰宅する習慣になる

「地域でとれたて」 農地や廃校の校庭を活用した自給自足の農園レストランの人気が高まり、一番人気の郊外スポットになる

「異文化シェア」 空き家や廃校を活用したダイバーシティ型シェアハウスで国際的な文化的交流を育くまれる

「にぎわいナンパ」 誰かに声をかけ積極的に交流することが奨励される。その報酬は地域通貨のポイントで交換される

□訪問者でにぎわう

「街全体がスタジオ」 映画ドラマ撮影地の効果で訪れたいまちになる。ツイッター発信でいっそう話題性が高まる

「日常がイベント」 同じ髪形の日、鍋の日など、まちの日常生活を楽しむ演出がたくさんある

「夢見る郊外住宅」 住宅の形が面白いとか、ギネスにチャレンジとか、いつも新しいことにチャレンジしている

「姉妹関係ある郊外」 遠く離れた姉妹郊外が増えて、相互交流イベントが繰り返し開催されている

□新しい暮らしが体験できる

「逆転生活」 大人と子ども、夫と妻、未来の自分と過去の自分など、誰かと立場を入れ替えて生活する日がある

「体験できるまち」 電子・機械のみの生活、原始生活、○○時代の生活など、様々な生活体験ができる

「暮らしのショーケース」 試供品のみで暮らす住宅、誰でも泊まれるサンプリングハウスなどがある

「おうちで世界旅行」 外外国からの留学生や旅行者を巻き込んで、国際交流の料理イベント、お泊まり会などが開かれる

「自慢できるまち」 0円ハウス、おいしい地産地消、電気の自給自足など、郊外の暮らしを自慢するようになる

□まち全体で家族付き合い

「玄関にPOP」 POPで家族プロフィールを知らせることで、助け合いの関係が育くまれる（ヴィレッジバンガード風）

「子供特派員」 子供記者が接着剤役（ファシリテーター）となり、地域イベントがいっそう盛り上がる

「空き家でパーティ」 月に一度のお泊まり会や持ち寄りパーティに、空き家が利用されるようになる

「街全体がチーム化」 名産品売り上げやイベント集客など、他の地域に負けない頑張りが生まれる

□孤独を感じさせない

「しあわせ学習」 老後の孤独感を和らげるためのコミュニケーション力を高める講座が開かれるようになる

「アソビの場」 世代間交流のための公共スペースが楽しく演出され、リタイア男性が集える場ができる

「オープンハウス」 SNSやFacebookで申し込めば、郊外地域の楽しみ方をいろいろ紹介してもらえる

「グループリビング」 シニアコミュニティや大学生などを対象に、グループで世代をこえて一緒に住むアパートが増える

「シニアの学校」 リタイアしたシニアが集まり、職業の知識やスキルを教える学びの場ができる

□空きが活かされる

「アイデアBANK」 地域リソース（貸せます）を貯めたバンクで、活用したいニーズ（使いたい）をマッチングするようになる

「地域の世話役」 大学生などに世話役を依頼して、スキマを活かす知恵を出してもらう

「空きイベント」 空き店舗で、様々なイベント（フリマ、学芸会、日替わりシェフ）が開催されるようになる

「モデル事業化」 行政・企業・学校・住民の協働によるモデル事業が行われるようになる

□さまざまなシェアで生活する

「価値シェア」 シェア生活による利益が、すべて美味いもの（特定の価値観）に投資される

「シェアセンター」 シェアコーディネーターがシェア教育も担い、地域の無駄を省く意識を醸成させている

「シェアポイント」 シェアする度にポイント獲得。シェアを競い合うトップシェアリストが誕生する

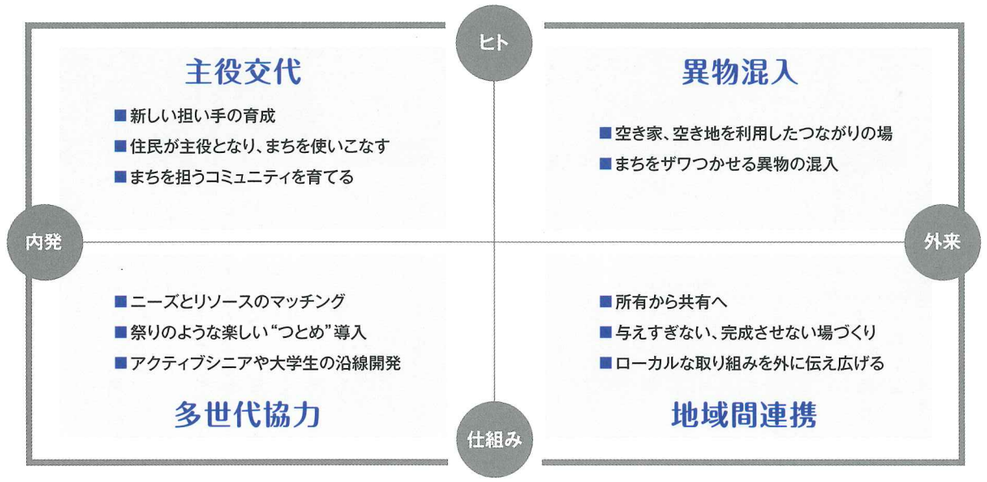
「シェア取引場」 駅前に不用品バンクが常設され、良いシェア物件が出てないか探すことができる

「シェアクラブ」 家事・シェア（子育て、送り迎え）、シェア祭、まちシェアなど、様々なクブラカテゴリーができ、メンバーが増える

まとめは次のページに、、、
「次世代郊外まちづくり」の魅力いっぱいです

Day1のまとめ

郊外にはダイナミックな多様性が必要である



働き場所がたくさんある

高齢者が元気で働けるように、鉄道沿線、駅周辺の環境づくりを進めて、駅前がホットだと言われるようになる。アクセスしやすい駅前であれば、都心に通勤している社会人も、地元の駅前オフィスで仕事するかもしれない。昼休みには、駅前サークルで世代間交流が生まれる。

地域に入っていく仕掛けとして、農業体験や地産地消を促進する。空き家を使った週末農業、学生の農業体験授業など空き家ビジネスを立ち上げる。名産品となるオーガニックブランドづくりなど、農業がクールとなるブームを巻き起こす。

マチナカ・リビング

廃校や団地の空きスペースを活用して、会社帰りに寄っていける食堂や飲み屋をつくる。農作物を地産地消していて、めちゃくちゃ旨いものが安く食べられる。高齢者のナンパを推奨すること(地域通貨のポイントがたまる)で、世代をこえてコミュニケーションが絶えない(世代をこえて楽しい)地域になる。

出会いの仕掛けを発展させて、日本人は何人まで、マイノリティしか入れないなどのダイバーシティを高めたシェアハウスをつくる。畑、ホテル、レストランを組み合わせれば、地産地消の農業体験から食体験までを提供でき、そのビジネス化も夢ではない。

郊外のテーマパーク化、素敵な没個性

日常生活を楽しませる要素が満載であり、様々なチャレンジが世間の注目を集める。例えば、みんな同じ髪型にする日や他人の家に鍋を食べに回れる鍋の日がある、まち並みに同じ木を植える、など楽しめる新要素が常に加えられている。さらには、姉妹関係で他の郊外と交流したり、映画やドラマのロケ地になる、ヒットソングの歌詞になる、スカイツリー的な差別化をはかる等、夢見る郊外を維持継続していく。

ワクワクスイッチのある暮らし

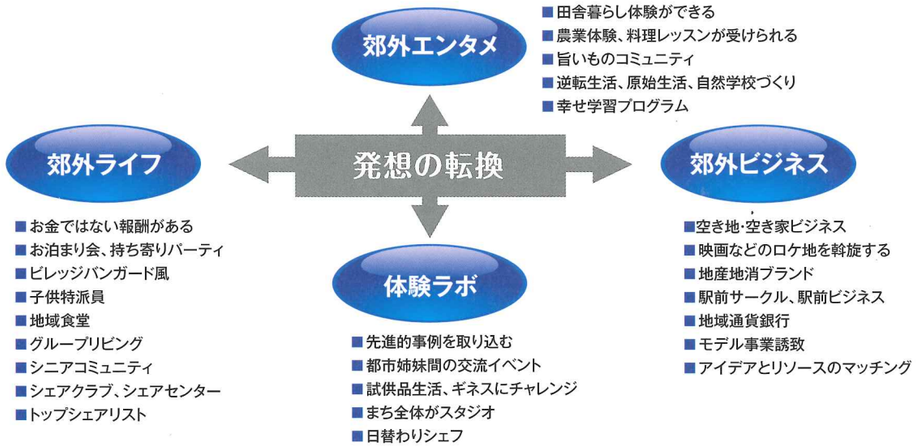
ここは毎日がワクワクで、退屈しない郊外である。暮らしの要素をスイッチする記念日があり、子供と大人が逆転生活を楽しむことができる。子供は会社へ出勤、お父さんは子供の学校で勉強する。その体験を通して、それぞれの立場を理解していく。

他には、紙を全く使っていけない記念日がある。本はすべて電子書籍、データのやり取りも電子のみ、ちょっとした未来を体験できる。昔に戻りたくなったら、空き家を改修した江戸時代ハウスもある。現代生活で飽食気味の方にはうってつけである。

さらには、いろいろな企業の試食品を集めたショーケースハウスがある。企業側の目的は広告宣伝や商品テスト、利用者側の利点はどこまで試供品のみで生活できるのか、というサバイバル挑戦である。外国の方が泊まれるゲストハウスでは、彼らがつくる料理をいただける。地域にいながら世界旅行(料理)が体験できる。

Day2のまとめ

発想の転換で、魅力的な郊外ができる



ほどよい距離感のコミュニティ

冷たい仮面関係でなく、ベタベタ関係でもない、近からず遠からず、程よい距離感を保った人間関係がある。地域で子供を育てるという高い意識が共有されており、お泊まり会や持ち寄りパーティなどが定期開催されている。

郊外の継続的な発展のためには、小さな交わりをいかにつくるかが大きな課題であり、各住宅玄関の表札やＰＯＰなどで気づき合うためのヒントを提示しあうことが大切。子供を使った促進策は特に有効であり、子供特派員が地域を駆け回ってコミュニケーションの活性化が図られる。

孤独のない郊外

リタイアした後の楽しみがいろいろと準備されている。孤独予防のためのしあわせ学習など、人とのつながり方を学べる場がある。友達や仲間が気軽にいつでも集まれるシェアハウスのシニア版がある。そこには、若い子も来てくれて、最近の話題をいろいろと教えてくれる。

スキマを魅力に変える

空き地、空き店舗、空き住宅、シャッター通り商店街、荒れた里山や耕作放棄地、空いているところ＝まちのスキマはたくさんある。そのスキマを有効に活用するために、使いたい側のアイデアをデータベース化して、オーナー側が安心して空き物件を提供できるようにする。いわゆる夢アイデアの信用金庫である。実際には、なかなか貸したがらないという難しさがあるので、まちの世話人や外部支援者を入れて、きちんとしたスキームに落とし込んでいく。

ステキなシェアライフ

これまでは何でも所有する生活であったが、シェアを単なる合理化や節約にとどめることなく、グロスローカルハピネス(ＧＬＨ)という価値へと高めたい。例えば。シェアにより生まれた利益を、うまい食べものに投資する戦略をとる。シェアすればするほど還元されるポイント制を導入することでシェアが促進されて、トップシェアリストも出てくる。象徴になる場所としてのシェアセンターも設置して、シェアコミュニティを育んでいく。

これからは、所有で所得を減らす引き算の生活ではいけない。すべてシェアに変えることで、自分の使える場所やお金を増やすことができる。

ふりかえり

今年度、横浜の郊外まちづくりをどうしようか、東急電鉄の田園都市線の沿線はどうしていこうか、という議論の中で今回の企画がスタートしました。このフューチャーセンターセッションというやり方は、私にとって初めての体験でしたが、役所の中では通常出てこないような考えがすごくたくさん出てきたので、非常に衝撃的な体験になりました。ぜひ機会があれば、フューチャーセンターセッションを市の中でも導入してやってみたいと思います。

この2日間のたくさんの良いアイデアに触発された職員が、「制度を緩和する」「制度を変える」とか申しておりましたが、すべてのアイデアを、ひとつずつ横浜のどこかで実現していきたいと思います。

素晴らしいアイデアをたくさんいただき、非常に有り難く感謝しております。本当にありがとうございました。

（横浜市建築局　黒田浩）

本当にお疲れ様でした。様々な方面で活躍されている方々がこの場所に集まり、たくさんの良いアイデアを出していただいたことに感謝いたします。この2日間のフューチャーセンターセッションに参加いただき、ありがとうございました。

今回の成果は、やりっぱなし、言いっぱなしに終わらないようにブックレットにまとめ、きちっと次の具体的アクションにつなげていこうと思います。実現に関しましては、特定の候補地域を検討しております。その活動の際には、今回の成果を使わせていただき、過去にこういったプロセスを踏んできたということを伝えていきたいと思います。もちろん、ご担当の方が人事異動になっても、後に続く担当の人へ必ず継承させていきたいと思います。

（東急電鉄㈱　都市生活創造本部　企画開発部　東浦亮典）

最後に

これまで郊外住宅地は単一の価値観で捉えられていましたが、その見方を「多様性を生む場」へと変えると良い。誰かが一人で考えるのではなく、みんなが主体となって活躍できるようなプラットフォームをつくると良い。このことを、横浜市の職員、東急電鉄の社員、大学やNPO、企業から参加した人たち、参加者全員が心の底から感じたのではないかと思います。

いかがですか。べつに新しい話ではないですよね。だって、今回のセッションそのものが「郊外住宅地の未来を多様な人たちが集まってイノベートしよう」という場であり、そのすばらしさを一度に体験したのですから。これから本当に変化が起きるかどうかは、権限や予算だけで決まるものではありません。そこに必要なものは、「アイデア」と、それを実現するための「行動」なのです。

例えば、空き家という「問題」は、「シェアハウスにする」というアイデアと実際にそれを運営するボランティアの行動で「資源」に変わります。このハッピーなサイクルに、一人でも多くの人が参加し、魅力的な郊外住宅地の未来を一緒に実現できればと心から願います。

（フューチャーセンターファシリテーター　野村恭彦）

参加者の感想（1日目）

多様な方が集まると、多様で楽しいアイデアが生まれてくることを実感しました 【A.A.】
今回のようなセレンディピティの体験を、もっと身近で増やしていきたいと思いました 【T.M.】
今回のつながりの輪が“ガッ”と広がる予感がしました【 I.A.】
新たな思いつき（アイデア）をたくさんいただきました 【S.M.】
参加者50人が次のコミュニティのアクティビストになることを期待しています【T.R. 】
日頃の生活観や価値観を入れていくともっと良くなると感じました 【M.N.】
豪華メンバーと話すことができて非常に楽しかったです【Y.A.】
たいへん刺激的でした。次回が楽しみです 【K.H.】
一つのテーマについて多様な人と話すことの楽しさを実感できました 【U.A.】
みんなで考えていく、このやり方がいいなあと思いました 【K.H.】
まとめが心配になるほど、たくさんのアイデアが集まりました 【T.K.】
これが始まりなので、次回トーンダウンしないように頑張りましょう 【T.T. 】
今日この場にいられたことを誇りに感じました 【M.M.】
なんとなく何か起こりそうな予感がしました 【A.T.】
終わった今でも、ワクワクした感じが残ったままです【F.E.】
来年から社会人なので、学ぶことが多くありました 【A.R.】
横浜市の皆さんが楽しそうに参加いただけたことが印象的でした 【O.T.】
大人たちが楽しいことしたいんだな、ということを再確認しました 【H.A.】
空き家という問題があることを初めて知りました 【S.R.】
みなさんの斬新なアイデアを聞くことに真剣で、あまり発言できませんでした 【O.T.】
重たい宿題をたくさんいただきました。アイデアで終わらせずに実現させたいと思います 【T.Y.】
たくさんのアイデアを、今後の政策に活かしていこうと思います 【T.K.】
学生ですが、授業で聞けないまちづくりの生の声を聞くことができました 【T.T.】
横浜のコミュニティを活性化する50のアイデアが生み出されたと確信しました 【N.M.】
不安がたくさんあっても、一歩踏み出すことがまちづくりだと思います 【O.E.】
世代を超えて対話することの重要性を実感しました 【T.Y.】
今回のセッションで、時間が貴重であることを再確認しました 【O.A.】
とても楽しいアイデアが生まれる場でした。職場に帰りたくなくなりました 【K.K.】
現場に携わる人の意見を聞くことの重要性を実感しました 【F.J.】
現場でも同じセッションを開いて、もっと多くのアイデアを生み出したくなりました【T.R.】
日常の仕事から離れて、非常に楽しい場でした【O.Y.】
ここから街を楽しむプロジェクトやコミュニティが、一つでも生み出されると良いですね【K.A.】
こうやって日本が変わっていくんだと感じました【N.T.】

参加者の「次の1歩」（2日目）

住む人（の楽しさ）を考えたまちづくりを心掛けます 【K.H.】
シェアを中心にしたまちづくり。私が初代シェアセンター長になり、世界に先駆けてシェアマーケットをつくります 【T.R.】
草の根活動から。まずは住んでいるマンションの向こう三軒両隣に挨拶を心がける 【G.M.】
ここ10年の住宅政策を立案している。これからは自分の身分を明かして、地域コミュニティ活動に参加していく【T.Y.】
定年後、楽な仕事ばかりを選んできたようだ。このままではいけない、常に成長と変化が必要である 【K.T.】
地域コミュニケーションの大切さに気づきました。地域のお祭りや体育祭、バザーなどを、一から人間関係を体験しなおします 【S.M.】
良いアイデアを広げるためのアイデアデータバンクをつくろうと思います 【S.Y.】
都市計画で緩和を促したい。緩和が難しければ、制度を変える交渉も国に掛け合います 【Y.A.】
良いアイデアが必要な人に届くように、アイデアマッチングサービスを実現させます 【I.A.】
シェアの新しい形に挑戦したい。一日数時間から、無理なく始められる空き部屋シェアを始めます 【K.A.】
地域住人が主体にならなければならない。デベロッパーは未完成の状態で将来設計を地域に託すべき 【T.R.】
現在社会は”所有”で泣かされる。”所有”から”共有”へ、自分の身の回りから見直していきたい 【T.H.】
しあわせ課など、ジェロントロジー（高齢社会総合研究）で検討してきた新しい考え方を社会へ発信していきたい 【M.N.】
地域の子供がかかわることで、大人同士の付き合いが大きく変わります。持ち帰って実現させたいと思います 【H.C.】
試供品生活やグロスローカルハビネスの実現を目指して、私の時間をシェアすることを始めていきます 【A.T. 】
贈りものや贈ることの価値（知識や経験、気持ち）を見直して、良好なつながりが実感できる地域社会にしていきます 【S.K.】
ハードばかりに偏らず、幸せ度を高めるような地域づくりの基本をしっかりと高めていこうと思います 【E.R.】
1500人規模のまちづくりプロジェクトに挑戦しています。古い空き物件の再生ビジネスを数年後には実現させます 【H.A.】
空き物件の可能性に気づかされたので、どなたかと一緒にビジネスにしていきたいと思います 【Y.N. 】
これから郊外に住もうと思います。公園や遊歩道で、地域の様々な人に声を掛けてみます 【K.C.】
スマートシティプロジェクトの良い参考になりました。次の50年のまちづくりには、コミュニティが必要と感じました 【U.A.】
家族づきあいって良いですね。高齢者が多い地域で隣り同士が疎遠でしたが、まずは挨拶から始めてみます 【I.Y.】
高齢者と若者を分けることなく、一緒に議論していくことの必要性を実感しました 【A.R.】
子育て世代の大人といっしょに、10-20年後の子供たちにまちの魅力を伝える活動を育てていきます 【M.Y.】
地域間で助け合う姉妹関係の考え方を広めるために、その意義や活動事例の紹介を出版します 【S.R.】
カタい行政の仕事ですが、地域の要望にこたえられるよう、柔軟に制度の運用をしていきたいと思います 【K.H.】
子供が通う小学校のお父さん同士が仲良くなって、おやじの会を立ち上げ、皆でまちのことを考え実行します 【O.T.】
郊外の魅力を数多くつくっていきたいと思います 【T.K.】
今回の成果が言いっぱなし、やりっぱなしにならないように、ブックレット化させます 【K.H.】
各地域で笑顔があふれるまちの食堂をつくります。思いをシェアしてくれる方、マッチングしてくれる方、大募集です 【F.E.】
新しい社会をつくりたいと本気で思えたので、制度を変えるところまで努力していきます【K.K.】
駅構内や駅周辺だけでなく、地域全体で空き家ビジネスを具体的に生み出していきたいと思います 【F.J.】
まだ大学生で親との同居ですが、どんどん地域コミュニティに入り込んで、新しい若い息吹を入れていきます 【T.T.】
独居の方や認知症の人に、地域をワクワクして感じてもらえるように話しかけたいと思います 【T.Y.】
第一歩として、実家の隣の空き家に住もうかと思います。NPOの仕事の半分くらいは家でできます 【T.Y.】
24時間主役になる住人を中心に、大学、企業、行政の力を結集させる場づくりを継続させます 【O.K.】
逆転生活にチャレンジしようと思います 【N.T.】
後進国で生活する人たちのように、少ない資産を分け合って生きていける地域を目指したいと思います 【M.M.】
郊外の小学校に楽しさを伝えるボランティアを実施します 【A.K.】